

「言葉が聞きたい」(IV)

「お母さん」 「なあに」

子が親を呼ぶとき、親はそこにいる。

それは彼の闇(不安や心配)をはらう光なのだろう。

自分は光の中にいる、その安心。だからまた思い切り遊びに興じていける、力や勇気を発揮する魔法。光の言葉

親を呼ぶ声、応える言葉

発する言葉と返す言葉が、同時同所の一点で成立する一瞬。即、すなわち

(その時、そこで、そのままに)

二つの言葉は一つなのだ。

念仏申す

いつ、どこで。どんなときに？ どうして？

かたくなな私の口を開かせ、漏れ出づるほどにか細い念仏が現れるとき、

私は気づきをもらう。

それは(私の口から発せられていながら)親よりの言葉、親の呼び声。

暗闇に灯る光

如来はここに来ておられる。私の方を向いて、私の側に私と一緒にいてくださる。

私は一人ではない、あなたがいる。私に届く光

如来が私に現れるとき、名号は言葉になった如来なのだ。

念仏となって私の耳に届く。言葉が聞こえた